



豊田市の二代目市長は 碧南市西端地区出身

豊田市は、3月1日に市制70周年を迎えました。日本、愛知県、西三河地域の発展に大きく貢献をされています。心よりお祝い申し上げます。

さて、現在の太田市長は8代目の市長ですが、実は3代目市長の故・長坂貞一氏は碧南市西端地区の出身です。

同氏は、明治24年（1891）に愛知県碧海郡西端村（現在は碧南市）の呉服屋の四男として生まれ、愛知県立農林学校（現在の県立安城農林高校）を卒業し、小学校教員、農林省営林署技手、額田銀行勤務を経て昭和8年（1933）42歳の時に挙母町役場の書記となりました。

その後、庶務課長、振興課長などを務め、トヨタ自動車工業（現在のトヨタ自動車）の誘致に参画しました（トヨタ自動車の創業者である故豊田喜一郎氏は工場の建設地を挙母か大府か碧南かで迷ったが、各段に安い土地価格を提示した挙母に決定したという話も残っています）。

昭和20年（1945）54歳で助役に就任。渡辺鈞吉市長の下で市制施行に力を尽くし、昭和26年（1951）60歳の時に挙母市が誕生するこ

ととなりました。そして、昭和31年（1956）1月、2代目の中村寿一市長が任期中に死去し、これに伴って行われた市長選に立候補し65歳の時に初当選し、3代目市長として2期8年間市政発展に尽力しました。同氏の市長時代、工場誘致条例を制定するとともに、市内中小企業に対しては、組合組織による団地結成を呼びかけ、2つの工業団地を造成しました。

また、同氏は多くの市民の反対を乗り越えて、昭和34年（1959）1月1日をもって市の名前を挙母市から豊田市に変更しました。67歳の時でした。

昭和43年（1968）、豊田市長市民に列せられ、翌昭和44年（1969）1月5日死去。77歳でした。碧南市の出身者が、西三河の雄である豊田市の市長となり、その発展に大きく貢献したという事実は、碧南市や市民にとっても大変誇らしいことです。

同氏のほか、天皇の御学問所、大久保利通邸屋敷、各岸壁などのたたき工事を実施した現在の碧南市西山町出身の故服部長七氏も昭和36年（1961）に岡崎市の名誉市民に列せられています。

碧南出身者のますますの活躍を期待します。



令和3年度 衣浦衛生組合一般会計予算

問 衣浦衛生組合
☎41-3479

衣浦衛生組合は、碧南市と高浜市で構成されている一部事務組合です。組合の主な事業と予算をお知らせします。

— 主な事業 —

し尿処理（衛生センター：開設38年）

- ・各家庭から収集された、生し尿、浄化槽汚泥の処理を行っています。

ごみ処理（クリーンセンター衣浦：開設26年）

- ・各家庭から出された、可燃ごみ、粗大・不燃ごみの処理を行っています。
- ・事業系廃棄物のうち、一般廃棄物（ごみ）の処理を行っています。

ごみ再生処理（リサイクルプラザ：開設24年）

- ・粗大ごみのうち、まだ再利用できる家具などの展示・販売（入札）を行っています。
- ・家庭にある不用品で、まだ使える物の出品・展示・販売を行っています。

温水プールと浴場の運営（サン・ビレッジ衣浦：開設22年）

- ・クリーンセンターのごみ焼却余熱を利用した温水プール、入浴施設の運営を行っています。

火葬場の運営（衣浦斎園：開設38年）

- ・火葬及び待合・葬儀利用ができます。
- ・霊きゅう車の運営管理を行っています。

